

企画講座

はじめての花結び ～小さなおひな様～

講師 川本 美香子

日本結び文化学会会員

「花結び」は一本の紐を手で結び、花や蝶、紋などの形をつくる飾り結びです。「結ぶ」という行為には、長い歴史と伝統に培われた美しさが存在しています。古代人は、その結び目に神の御心が宿ると信じていました。仏教の伝来と共に花結びが伝えられると、花結びの文化は一気に花開きました。そんな優美な結びを現代風にアレンジして楽しんでみましょう。2年にわたってコロナウイルスの影響で中止となった花結びでつくるおひな様講座。ちょっと早めの日程にして今年こそはと再々挑戦をいたします。高さ5センチほどの小さなおひな様は玄関や棚など、ちょっとしたスペースにピッタリのサイズです。豪華絢爛なおひな様も素敵ですが、手づくりの心を込めて作ったおひな様もまた素敵ですよ。ぜひ今年の桃の節句に手づくり雛を飾ってみませんか？（筆記用具・ハサミ・ピンセット・まち針（2本）を必ずお持ちください）※材料準備の都合により、12/7に申し込みを締め切りますので、お早めにお申し込みください。※講座時間が午前の部と午後の部に分かれます。先着順で午前の部から受付いたします。

日時 12月14日(水) 午前の部 10:30～12:30・午後の部 13:30～15:30

参加費 会員 2,700円 ビジター 3,200円(材料費含む) 場所 五十鈴塾右王舎 定員 各回7名限定

『徒然草』における伊勢像 ～文学と歴史の接点～

講師 メイヨー・クリストファー

皇學館大学文学部教授コミュニケーション学科

兼好法師が十四世紀に著した『徒然草』を題材にして、そこに描かれた伊勢像を考えてみます。第二十四段の「斎王の野宮におはしますありさこそ」や第五十段の「伊勢国より、女の鬼に成りたるを」などの文学を通して日本文化史を読んでみませんか。このお馴染みの古典文学を「伊勢」という視点から見直してみたい方は、ぜひご参加ください。

日時 12月16日(金) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円

場所 五十鈴塾右王舎 定員 18名

【オンライン講座日程】

日時 12月16日(金) 13:30～15:00 参加費 全員 1,000円 配信 ZOOM配信(ストアカ)

※オンラインの配信講座は同時中継いたします。オンライン講座はストアカに直接お申し込みください。

第三回 伊勢で100年以上続く老舗シリーズ 伊勢和紙 ～神宮御用紙としての歩みとこれから～

講師 中北 喜亮

大豊和紙工業株式会社取締役 営業部担当

今日につながる伊勢和紙の由緒は他の和紙産地と比べて格別新しく、その歴史は明治に入ってからですが、大豊和紙工業は神宮御用紙製造という重要な役目を果たすべく操業しています。伊勢山田（外宮前）大世古の旧・御師龍大夫邸宅跡地で脈々と継続している、清浄を旨とした紙づくり。丹念に不純物を取り除いてつくりあげるその技術と品質、供給の安定性についてお伺いします。また伊勢和紙としての近年行ってきたプリント用紙の製造や、最も新しい取り組みとしての三重県内（伊勢国）産の原料（ミツマタ）の開拓、それらを使用した和紙の製造についてのお話もお伺いしましょう。常に新しい取り組みとつづ、「伝統」とは何かが、今一度みなさまと一緒に考える機会となれば良いと思っています。

日時 12月19日(月) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円

場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

龍大夫と檀家の近代 ～御師廃止とその影響～

講師 谷口 裕信

皇學館大学文学部国史学科准教授

明治時代に廃止された御師のその後についてお話しいたします。御師は、「顧客」である檀家にお礼を配って参宮するように勧め、檀家を自らの邸宅に泊めて諸々の世話を焼く、言わばツアーコンダクターでした。ところが近代に神宮の改革が断行され、御師は廃止されます。昨年（令和3年）はその150年を記念して「伊勢の御師フォーラム2021」が開催され、このような御師の活動に改めて注目が集まりました。では廃止後の御師はどうなったのでしょうか。檀家たちとの関係性は断ち切られたのでしょうか。外宮方有数の御師にして、現在の大豊和紙工業株式会社の敷地に邸宅を構えていた大世古の龍大夫を事例に、彼らの近代について考えてみたいと思います。

日時 12月22日(木) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円

場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

お正月の花

講師 竹澤 幸甫

嵯峨御流正教授

お正月は家ごとに年神様を迎え、一年の幸を祈り、新しい年をお祝いするものです。ではどこにお迎えるのでしょうか。それは門松なのです。日本人は神様の霊は常緑樹や季節の草花に宿ると信じ、その土地の常緑樹を依代としていましたが、平安時代から次第に松が用いられてきました。昭和の中頃まではどの家でも大きい小さいはありましたが、門松を立てていました。今は住宅事情からいっても無理なのでせめてお正月のお花に松を入れて神様に来ていただきましょう。今回の花材はちょっと洋花も入れてみましょうかと先生はおっしゃっています。楽しみにしてください。（花包み・花切り鉋・タオルなどをお持ちください）※材料準備の都合により、12/15に申し込みを締め切りますので、お早めにお申し込みください。

日時 12月23日(金) 13:30～15:00 参加費 会員 3,800円 ビジター 4,300円(花材費含む)

場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名

大人も子供も楽しい陶芸 ～焼き物にチャレンジ～

講師 村上 光男

陶芸家

夏に親子連れや友達同士など大勢でワイワイと陶芸をしたところ、大変好評でぜひまたとのお声が多く、冬休みに企画しました。焼き物って年配の人が難しい顔をしながら作っているというイメージがありますが、実は泥遊びの延長みたいなもので、子供たちの創造力や表現力の豊かさに本当に驚かされました。売っているものを見るとこんな突飛なものはどうやって作るの？と思いますが、実は簡単で要は発想力の勝負です。世界でただ一つの自分だけの焼き物、どんな形のものでできますので面白くて一度はまったらやめられません。だまされたと思って一度チャレンジしてみませんか？※出来上がった作品は焼いた後に塾に取りに来ていただくか、着払いで送らせていただきます。（エプロンとタオルをお持ちください。）

日時 12月26日(月) 13:30～15:30 参加費 会員 3,200円 ビジター 3,700円(材料費含む)

場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名

※12歳以下の子供1名分は参加費に含まれています。更に追加参加は、1名につき1,800円

伊勢国司北畠氏の歴史⑥

講師 岡野 友彦

皇學館大学文学部長

三重県内各地に伝えられる伊勢国司北畠氏関係の古文書を読み解くことで、中世後期の伊勢を生き抜いた北畠氏の歴史を見ていこうというシリーズの第6回目。今回は応仁の乱に際して伊勢国司と守護を兼ねた北畠政郷（政勝・逸方）の古文書を読みながら、伊勢国内に大きく版図を広げた時代について考えてみます。中世の古文書を読めるようにになりたいと思っている方、大歓迎!!

日時 1月16日(月) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円

場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

お正月とほうじ煎茶

講師 藤原 和美

皇風煎茶禮式師範・杉山 理

皇風煎茶禮式準総師範

お煎茶はあまり堅苦しい作法がなく、普通のお茶のように気軽に楽しめます。しかしちょっとしたところに気を配ると格調高くいいただけるのです。お茶好きな日本人、ペットボトルも便利ですが、たまには自分好みのお茶を丁寧に煎れてみましょう。今回は暖かさをメインにほうじ茶です。先生が煎れてくださるのを見ていてもステキなのですが、皆さんにも体験していただくということになりました。まず茶葉を焙じるところから、炭火で数回繰り返すという香りが漂ってきます。部屋中が暖かく、ゆったりとした気分になります。これを茶器に入れて美味しいほうじ茶を煎れるのですが、そのところの気配りが味の決め手のようです。詳しく教えていただきながら、自分好みの焙じ茶を味わい、ご家庭でも大切な人に煎れてあげましょう。

日時 1月18日(水) 13:30～15:30 参加費 会員 2,000円 ビジター 2,500円(お茶・お菓子代含む)

場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名限定

伊勢志摩でチャレンジする新しい農業のかたち

講師 豊永 翔平

株式会社ボモナファーム 代表取締役CEO

ボモナファームの農業は「湿度で育てる」特許技術により、栄養豊かで抜群の美味しさ、しかも、超節水、低エネルギー、排水ゼロ。これからの農業の世界に貢献すべく、伊勢志摩の地で様々な挑戦をしています。令和元年は農家にとって「最悪の時代の幕開け」とも表現され、今この瞬間も世界の各地で気候危機がはっきりと迫ってきています。かつての四大文明さえも気候変動に直面し、やがて資源や領土を奪い合う戦争の末に滅びた事は、決して遠い過去のものではありません。これからどのような未来を作っていくべきなのか、世界中の気候危機の事例を交えながら、ボモナファームの海水農業×太陽光でサステナブルな新しいチャレンジなども紹介します。

日時 1月26日(木) 13:30～15:00 参加費 会員 1,500円 ビジター 2,000円(季節野菜のお土産付き)

場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

倭姫命の御巡行地を訪ねて その4

講師 音羽 悟

神宮司庁広報室広報課課長

今回は天照大神が五十鈴の川上に御鎮座された「日本書紀」の記述について詳細に解説します。垂仁天皇25年の本文の春3月条には、倭姫命が天照大神を奉じて伊勢国に至り、「斎宮」を五十鈴の川上に興でられ、これを「磯宮」と称するという内宮創祀の有名な記載があります。ここでいう斎宮や磯宮の意味は、具体的には何処を指しているのでしょうか。この本文の状に割書の小さな字で「一云」として丁巳年冬10月甲子に伊勢国渡遇宮に遷したとの記述が見られます。その文意は本文とよく似ていますが、わざわざ一云としたのは何故でしょうか。それは丁巳年冬10月甲子の年次が本文と符号しないからです。垂仁天皇紀では丁巳は26年に当たり、冬10月には甲子は存在しないのです。この疑問をどのように解決すればよいのでしょうか。神宮手帳は9月甲子説を採用していますが、「渡遇宮」をどう解釈するかでも根本的に説が分かれ、今回はこの書紀条文の記述の解釈と真意に迫ります。

日時 1月27日(金) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円

場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

冬の星見とプラネタリウム100周年

講師 毛利 勝廣

名古屋市科学館学芸課天文主幹・学術博士

冬の星空には、冬の大三角やオリオン座、ふたご座などの有名な星座が見えています。当日はまばゆい満月や接近中の赤い火星も見えています。晴れたらレーザーで冬の星座をたどったり、望遠鏡で月をご覧いただきたいと思います。2023年は、近代プラネタリウムができてから100周年の世界的な記念の年になります。その成り立ちと歴史から、プラネタリウムとはなにか、どうあるべきかを考え、お話ししたいと思います。

日時 2月6日(月) 18:30～20:30 参加費 会員 1,200円 ビジター 1,700円(和菓子・お茶付き)

場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

※お菓子は講座に合わせて作っていただく五十鈴茶屋の特製菓子です。

知るほどに奥深い珈琲の世界

講師 中村 雅則

なかむら珈房店主・中村 純也

SCAJコーヒーマイスター・ブラジル珈琲鑑定士

なかむら珈房ファンのみな様、お待たせいたしました。約一年ぶりの珈琲講座です。もう2年以上も続くコロナとの闘い、随分とストレスも溜まっていますよね。そんなストレスを芳醇な香りのおいしい珈琲で癒しませんか。今回は先生が厳選した珈琲を味わいながら、生豆の産地・珈琲の歴史など珈琲にまつわる様々なお話をお伺いします。珈琲のお供はチョコレート。しかもなんと珈琲生豆の焙煎技術を応用し、カカオ豆を焙煎するところから作り出される、なかむら珈房オリジナルチョコレートです。珈琲生豆とカカオ豆の産地は環境が似ており、そこから生み出されるチョコレートは珈琲にとっても合います。なかむら珈房のBean to Bar。（ビントゥパー・・・カカオ豆からチョコレートバーになるまで一貫して製造を行うこと）珈琲とクラフトチョコレートをともに楽しみましょう。

日時 2月7日(火) 13:30～15:30 参加費 会員 2,200円 ビジター 2,700円(材料費含む)

場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名限定

伊勢商人と松阪の豪商三井高利

講師 杉山 亜沙佳

松阪市立歴史民俗資料館学芸員

三重県には伊勢商人と呼ばれる商人たちがいました。伊勢商人とは、伊勢国出身商人の総称で、出身地別に分類すると、松阪中心部出身者からなる松阪グループ、射和・相可・丹生などの櫛田川グループ、津城下町の津グループ、鈴鹿・白子の白子グループに大別できます。中でも松阪商人の三井高利は江戸への進出は遅かったものの、「店前売」や「現金掛け値なし」などの様々な商法を生み出し一躍豪商と呼ばれる大商人になりました。高利亡き後も、その商法は子孫が引き継ぎ斬新な商いとPRを展開しました。そして、高利が開いた越後屋は三井財閥、三井グループへとつながっていきます。本講座では、実物資料も交えながら伊勢商人のあらましと三井高利について紹介します。

日時 2月8日(水) 13:30～15:00 参加費 会員 950円 ビジター 1,450円

場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

記念日に贈るハンギングバスケット

講師 山路 元彦

ヤマジ園芸代表取締役・グリーンアドバイザー

ハンギングバスケットとは植物を植えて吊り下げたり、掛けたりできる花鉢のことで、ガーデンスペースが限られていた場合などは空間を有効利用して楽しむことができます。日本の2月といえばバレンタインデーという大きなイベントがあり、巷ではチョコレート商戦が賑わいを増しますが、諸外国のバレンタインデーは男性から女性にプレゼントを贈ったり、家族や友人にプレゼントを贈るところもあるとか。くしくも講座の次の日はバレンタインデー。チョコレートも良いですが、日頃お世話になった方への感謝のしるしとして手作りのハンギングバスケットを送ってみるのも良いのではないのでしょうか。一年のうちで一番寒いこの季節、可愛いお花を飾って春の訪れを待ちましょう。（園芸用手袋、エプロン、タオルなどをお持ちください）※材料準備の都合により、2/6に申し込みを締め切りますので、お早めにお申し込みください。

日時 2月13日(月) 13:30～15:00 参加費 会員 4,400円 ビジター 4,900円(材料費含む)

（ハンギングバスケット用の容器・スポンジをお持ちの方は参加費が800円、また容器のみをお持ちの方は500円安くなります）

場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名限定

日本の神話③ ～古事記を中心として～

講師 山中 一孝

豆腐庵山中代表取締役

前回、黄泉の国での妻との悲しい別れから立ち直ったイザナギは筑紫の日向の橘の小門で禊祓をし、多くの神々が生まれました。最後に生まれた神が天照大御神、月讀命、建速須佐之男命の三貴神です。ついに天照大御神が出現ですね。ここから高天原でのお話が始まります。建速須佐男之命の乱暴、天照大御神の天岩戸隠れなどドラマチックでダイナミックな物語が展開します。しかし裏を読み解くといろいろなことが隠されているのです。山中先生の推理はどう展開するのでしょうか？

日時 2月15日(水) 18:30～20:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円

場所 五十鈴塾右王舎 定員 18名

【オンライン講座日程】

日時 2月15日(水) 18:30～20:00 参加費 全員 1,000円 配信 ZOOM配信(ストアカ)

※オンラインの配信講座は同時中継いたします。オンライン講座はストアカに直接お申し込みください。

伊勢西国三十三所 総集編

講師 千種 清美

文筆家・皇學館大学非常勤講師

もう一つのお伊勢参り、伊勢鳥羽方面から桑名いなべ方面まで全部回られた千種先生にそれぞれのお寺の建物や仏像、ご住職のお人柄までいろいろとお伺いしてきました。神仏習合が当たり前の時代、伊勢神宮という圧倒的な存在を中心としてより大勢の人が幸せになれるように、宗教を越える協力体制といえましょう。講座は佐期間でしたので、その後に新しい事実や追加するべき歴史などが出てきました。今回は総集編として、全体を見渡した場合のひと味違った見方も加えながらの講座です。

日時 2月24(金) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円

場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

楽しい俳句

講師 石井 いさお

煌星俳句会主宰

わずか17文字にいろいろなことを詠みこむ俳句。筆記用具さえあればいつでもどこでも楽しめる手軽な趣味。難しいことを言えば貴族社会で楽しまれていた連歌から始まり、俳諧となり、芭蕉が芸術にまで高めた究極の短詩です。これを生み出したのが日本人であることは世界に誇るべきことです。日本語のリズムは知らず知らずに5・7・5になっているといわれます。つまり誰もが俳句を作る下地を持っているのです。いまや世界の人々が作る俳句、一度ぜひ作ってみてください。石井先生がわかりやすくノウハウを教えてください。

期日 12月21日(第3水曜日)・1月25日(水)・2月22日(水)

時間 各回10:00～12:00 定員 20名

参加費 各回 会員 1,600円 ビジター 2,100円

野外講座

いつも野外講座にご参加いただき有難うございます。集合場所へは必ず時間厳守でお越しください。

室生寺の仏像に会いに行く

講師 瀧川 和也 三重県総合博物館調査・資料情報課課長

お寺の建物と仏像の数々が国宝と重要文化財のオンパレードという室生寺に瀧川先生と訪ねる贅沢な企画です。更にちょうど紅葉の時期でもあるのです。室生川にかかる太鼓橋から正門を見ると赤い紅葉が出迎えてくれます。参道をたどり仁王門へ、更に鎧坂から金堂へ紅葉のメインロードをゆくと、両側の銀杏や紅葉がまるで絵のようです。国宝の建物が紅葉に映えて昔の人はこの光景をこの世の極楽と見たことでしょう。紅葉に気を取られますが国宝と重文の仏像をじっくりと拝んでその素晴らしさに浸ってみましょう。室生寺の後は龍穴神社へ歩いてお参りにゆきます。室生寺よりも古くから祀られ、水神、龍神が御神体で雨ごいの神として知られ、朝廷から雨ごいの使いが遣わされたほどです。古い由緒を持つ神様と仏様にお参りをして、来る年の幸せを祈りましょう。

日 時 12月2日(金) 9:00～17:30 参加費 会員 11,000円 ビジター 12,000円(バス代・昼食代・入館料・保険料含む)

集合場所 8:55に五十鈴川駅ロータリー集合 最少催行人数 20名 (歩きやすい服装で飲み物などをお持ちください)

奉幣の儀とお礼参り

五十鈴塾事務局

12月15日から25日までは伊勢神宮の月次祭、神宮のお祭りの中でも6月と12月の月次祭と10月の神嘗祭は三節祭といわれ、重要な祭典です。今回は内宮の奉幣の儀を奉拝させていただきます。奉幣の儀とは神様に幣帛を奉ることで貨幣がなかった時代、貴重な品として絹織物などをお供えした伝統が今に続いているものです。今は他の神社へは幣帛料ですが神宮だけは五色の絹や数種の織物だそうです。天皇陛下からの勅使が参向され、正殿に奉納されます。この厳かな行列を奉拝し、御正殿、荒祭宮、風日祈宮、瀧祭神に一年の感謝を込めて御礼参りをいたします。その後、すし久で昼食を食べましょう。

日 時 12月17日(土) 11:30～13:30 参加費 会員 2,000円 ビジター 2,500円(昼食代含む)

集合場所 11:30に宇治橋前集合 定 員 15名 (歩きやすい服装で飲み物などをお持ちください)

特別企画講座

おせち料理を知ろう

講師 西岡 宏起 相可高校食物調理科専門調理師教諭

「おせち」の由来は節といわれる季節の変わり目に神様に収穫を感謝する風習の「節供」が起源ですが、現在では節句の中でも一年の始まりのお正月に食べる料理を「おせち料理」とよんでいます。毎年相可高校では食物調理科の3年生が、今まで学んだ食物の知識の集大成としておせち料理を作ります。作ったおせちは日ごろお世話になった方々へ差し上げたり、3年間学業を支えてくれた家族への感謝として家に持ち帰ります。そのほか一般への販売も行っていますが、販売数が限られるため、これを手に入れるのはなかなか難しいのが現状です。そこで今回は、おせちの一品一品のいわれや簡単なレシピなどをお伺いし、相可高校のおせち料理を味わう贅沢な講座を企画しました。新年にはまだ少し早いですが、一足早くお正月気分を味わいましょう。

日時 12月10日(土) 11:00～13:30 参加費 会員 4,000円 ビジター 4,500円(食事代含む)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

伊勢志摩の正月行事

講師 櫻井 治男 皇學館大学名誉教授

伊勢志摩は伝統を大切に土地柄もあって、正月行事がたくさん残されています。ことに鳥羽や志摩地方は漁業が生計の手段で、自然の恵みが一番大切ということと、俗に「板子一枚下は地獄」といわれるように海の恐ろしさも身をもって体験する中で、神仏を敬い頼る状況が生まれてきたようです。海の男たちの豪快な気風がはぐくんできた華やかな祭り、また海女さんたち特有の祈りの世界など他所にはない独自色がみられます。櫻井先生に海を中心とした正月行事とその背景などについてお話いただきます。

日時 1月30日(月) 13:30～15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

神崎宣武塾長 特別講座

神崎 宣武 民俗学者・神崎研究室室長

「絵巻物」を読む 第4回 ～一遍聖絵～念仏踊りで教化～

一遍上人の教えは念仏を唱えれば貴賤を問わず極楽往生ができるというもので、布教のために踊念仏を手段として使いました。いささか見世物的興行に近く、踊り屋という一段高いステージを設け、一遍に同行した僧侶や尼僧など20人～40人が輪になって踊りながら念仏を唱えるというものでした。観客の方も次第にエスカレートしてゆき、集団となって踊ったといわれます。聖絵にはこうした様子が詳細に描かれ、当時の庶民の有様が手に取るようにわかります。一部の上流社会を除いてはまるで犬猫のように扱われていた一般大衆が、どんな暮らしをしていたかを知る手段として有効な絵巻です。神崎塾長とじっくりと見て庶民の喜びや悲しみ、そしてしたたかさなどをくみとりましょう。

日時 2月2日(木) 18:30～20:00 参加費 会員 1,200円 ビジター 1,700円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 18名

【オンライン講座日程】

日時 2月2日(木) 18:30～20:00 参加費 全員 1,200円 配信 ZOOM配信(ストアカ)

節分と立春

今では節分は2月3日と決まっていますが、旧暦だと正月にあたる立春の前の大晦日の年越し行事として行われていました。いまでも神島では大晦日に豆を撒いて悪霊を祓う風習が残っています。では豆は撒くのはなぜなのでしょう？ 実は豆まきは江戸時代から始まったものらしく、神社や寺が賽銭を目当てに役者や力士などを年男として招き、豆まきをおこなったのが始まりらしいのです。今とあまり変わりませんね。では本来の節分とはどういうものだったのでしょうか。知っているようで知らない節分と立春のお話です。

日時 2月3日(金) 13:30～15:00 参加費 会員 1,200円 ビジター 1,700円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 18名

【オンライン講座日程】

日時 2月3日(金) 13:30～15:00 参加費 全員 1,200円 配信 ZOOM配信(ストアカ)

※オンラインの配信講座は同時中継いたします。オンライン講座はストアカに直接お申し込みください。

毎日を元気で生きる薬膳料理

講師 高木 久代 鈴鹿医療科学大学副学長・保健衛生学部教授・日本薬膳学会代表理事 協力 おかげ横丁 すし久

薬膳と聞くと「体に良さそうだけど漢方がたくさん入っていて薬臭い」「食材が手に入らない」「難しそう」などのご意見がです。実はそうではないのです。薬膳とは毎日元気でいるための食養生のひとつであり、自分の体に合った食べ物を食べて元気になる食事のことなのです。前は夏でしたが、今回は冬から春に変わる時期、体を温め、春の準備をする食のお話を伺います。自然が冬の眠りから目覚めるように体もまた新陳代謝がさかんにになり、活動的になってきます。特に冬に栄養の貯蔵庫として働いていた肝臓は、ちょっとお疲れ気味なので肝臓の働きを助ける食材、血液を補う食材、滋養強壮効果がある食材を意識した食事が重要になります。そんな食材を取り入れた春の薬膳はどんなメニューなのでしょう、楽しみです。お話の後は先生ご指導の薬膳料理をすし久でいただきます。

日時 2月9日(木) 11:00～13:30 参加費 会員 3,800円 ビジター 4,300円(高木先生考案の薬膳料理付き)
場所 五十鈴塾右王舎・すし久(おはらい町通りの食事処) 定員 20名

聖地巡礼 ～京都の神社① 白峯神宮～

講師 西山 克 京都教育大学名誉教授

全国の神社の数は8万社以上、中でも京都は、多分日本一だろと思いますが、実はそうではないのです。一番は新潟県の約5000社、三重県は伊勢神宮があるのになんと800社くらいです。全国のお寺の数は77000、対してコンビニの数は55000、郵便局は24000、日本は本当にいたるところに神社やお寺があるのですね。京都の神社の数は1700社以上と推定されますが、無人の所も含めるともっと多くなります。上賀茂神社や北野天満宮など有名な神社は誰でも知っていますが、あまり知られていない神社の中にも、実はとても興味深い歴史や御利益があります。今回はその第1回白峯神宮についてです。白峯神宮は平安末期の悲運な天皇であった崇徳天皇を祀った神社です。崇徳天皇は上皇になった後、保元の乱に巻き込まれ、讃岐国(香川県)に流されてその地で絶望の内に崩御しましたが、その怨念が都に災いをもたらしたという伝説があります。幕末の頃、孝明天皇が京都に移そうとされましたが、果たせずその意志を継いだ明治天皇によって白峯神宮が建設されました。その地は元々蹴鞠の宗家であった飛鳥井家の跡地だったので、摂社の地主社に祀られた精大明神が球技全体の守護神とされ、お参りの人が多く訪れています。京都に住まれる西山先生ならではのお話が楽しみです。

日時 2月14日(火) 13:30～15:00 参加費 会員 1,200円 ビジター 1,700円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名